

漢方問診票

漢方問診票は患者の漢方的な状態を診断するための質問表であり、95項目の質問（症状）が記載されている。患者にこの質問に沿って自分の症状にあてはまるものに「◎（重い症状がある）」「○（症状がある）」「△（症状が軽いけれどもある）」の3段階にわけて記載してもらえると、現在の漢方的病態（証）の診断の補助になる。また、治療に伴って継続的に問診票をチェックすると、治療効果の判定や第二選択以降の漢方方剤の選択の目安にもなる。95項目の症状等は、それぞれ方剤や生薬を選択するためのキーワードになっている。

診察日：____年____月____日 ID：_____

ふりがな
氏名：_____

生年月日（年齢）：____年____月____日（____歳） 職業_____

以下の項目のうち、あてはまる項目・部分に○を、程度の軽い場合には△、重い場合には◎をつけてください。

A 全般的な体の状態についてお聞きします。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ① 疲れやすい（体がだるい） | ⑧ 食欲がない |
| ② 気分がすぐれず、気力がない | ⑨ 食べたいと思うが、食べられない |
| ③ 気持ちが落ち着かない、イライラする | ⑩ 寝つきが悪い、眠りが浅い |
| ④ 物事に驚きやすい | ⑪ 朝早く目が覚める |
| ⑤ 集中力がない | ⑫ 寝起きが悪い |
| ⑥ 風邪をひきやすい | ⑬ 食後、眠くなる |
| ⑦ 乗り物酔いしやすい | |

Ⓑ はつねつ、さむけについてお聞きします。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ① 寒がりである | ⑤ 体に熱感がある，よく微熱が出る |
| ② 冷える（背すじ・手・足・腰・下半身） | ⑥ 手足がほてる |
| ③ しもやげができる（耳・手・足） | ⑦ のぼせやすい |
| ④ 冬は電気毛布，カイロなどが必要である | ⑧ 急に，暑くなったり寒くなったりする |

Ⓒ ひふについてお聞きします。

- | | |
|---------------------|---------------|
| ① よく湿疹が出る（分泌物あり・なし） | ④ 皮膚がかサカサしやすい |
| ② じんましんになりやすい | ⑤ 皮膚がかゆい |
| ③ おできや吹出物・にきびが出やすい | ⑥ 冬にはあかぎれになる |

Ⓓ あせについてお聞きします。

- | | |
|--|------------|
| ① 汗をあまりかかない | ③ 発作的に汗をかく |
| ② 汗をかきやすい（全身・首から上・わきの下・胸・背・下半身・手のひら・足の裏） | ④ 寝汗をかく |

Ⓔ あたまについてお聞きします。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ① 頭痛の性質（ズキンズキン・キリキリ・帽子をかぶっているように締めつけられる・頭が重い） | ② 頭痛の部位（全体・右半分・左半分・こめかみ・目の奥） |
| | ③ 頭痛のみられる時間（1日中・起床時・夕方・人混みに出た時・生理時） |

A 全般的な体の状態についてお聞きします。

〔関連診療科〕 全診療科

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ① 疲れやすい (体がだるい) | ⑧ 食欲がない |
| ② 気分がすぐれず、気力がない | ⑨ 食べたいと思うが、食べられない |
| ③ 気持ちが落ち着かない、イライラする | ⑩ 寝つきが悪い、眠りが浅い |
| ④ 物事に驚きやすい | ⑪ 朝早く目が覚める |
| ⑤ 集中力がない | ⑫ 寝起きが悪い |
| ⑥ 風邪をひきやすい | ⑬ 食後、眠くなる |
| ⑦ 乗り物酔いしやすい | |

この項目の症状でおおまかな虚実判定が可能になる。たとえば「①疲れやすい (体がだるい)」の症状があれば気虚を示すサインであるし、「③気持ちが落ち着かない、イライラする」の症状があれば、一般に気逆があると推定される。「⑦乗り物酔いしやすい」は水毒の有力なサイン、「⑩寝つきが悪い、眠りが浅い」は血虚または気虚のサインと考える。「⑬食後、眠くなる」は脾虚の有力なサインであり、ほちゅうえつきとう
補中益気湯の適応かもしれないと見当がつく。

項目 A は証の大体の目安になり、本治療法の選択の目安にしやすい。

臨床メモ

比較的、証を無視して症状だけで使える方剤

- さいごかりゅうこつぽれいとう 柴胡加竜骨牡蛎湯, けいしぶくりようがん 桂枝茯苓丸, しょうはんげかぶくりようとう 小半夏加茯苓湯, はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯, ごれいさん 五苓散,
かんぱくたいそうとうじゅうみはいどくとう 甘麦大棗湯, 十味敗毒湯 など。

① 疲れやすい (体がだるい)

気虚 (☞ p258)

気虚の臨床サイン

倦怠感, 気力・集中力低下, 易疲労感, 日中の眠気, 食欲不振, 風邪をひきやすい, 下痢, 性欲低下など。

気虚の改善剤

しくんしとう 四君子湯, りつくんしとう 六君子湯, ほちゅうえつきとう 補中益気湯, にんじんとう 人參湯

全身倦怠感について

- 術後, 病後, 産後に体力が低下し, 食欲不振, 盗汗, 動悸, 微熱, 下痢などがある:
ほちゅうえつきとう 補中益気湯, せいしよえつきとう 清暑益気湯
- 手足の冷え, 胃腸が弱い, 食欲低下, 心窩部のつかえ, 痩せ, 食物を見ると吐き気がする, 食後眠い:
りつくんしとう 六君子湯
- 顔色が悪い, 皮膚が乾燥, 貧血, 口乾, 舌の荒れ, 頭痛など:
じゅうぜんたいぼとう 十全大補湯
- 疲労・倦怠感に加え, 微熱, 口渴, 首から上の汗, 神経質, 神経過敏, 吐き気はない:
さいこけいしかんきょうとう 柴胡桂枝乾姜湯
- 虚弱で冷え症, 寒がり, 冷えて腹痛がする, 尿が近い, 手足がだるい, ほてる, 虚弱児:
しょうけんちゅうとう 小建中湯
- 疲れやすい, だるい:
ほちゅうえつきとう 補中益気湯
- 体力の低下と疲労感がある:
かみきびとう 加味帰脾湯

気鬱 (☞ p258) による全身倦怠感

- 気の異常が不安感の原因: 甘草, 酸棗仁, 大棗, 小麦, 膠飴を含む
方剤:
かんばくたいそうとう 甘麦大棗湯

気鬱の臨床サイン

抑うつ感, 悪心, 嘔吐, のどの絞扼感, 便秘, 早朝覚醒。

気鬱の改善剤

はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯, こうそさん 香蘇散, しぎやくさん 四逆散, さいぼくとう 柴朴湯

- 気の異常がイライラの原因: 柴胡, 黄連, 黄今を含む方剤 (しょうさいことう 小柴胡湯, おうれんげどくとう 黄連解毒湯)。
- 気の異常が焦燥感の原因: 竜骨, 牡蛎を含む方剤 (さいこかりゅうこつぼれいとう 柴胡加竜骨牡蛎湯, けいしかりゅうこつぼれいとう 桂枝加竜骨牡蛎湯)。

B はつねつ，さむけについてお聞きします。

〔関連診療科〕呼吸器科，内科，産婦人科（更年期）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ①寒がりである | ⑤体に熱感がある，よく微熱が出る |
| ②冷える（背すじ・手・足・腰・下半身） | ⑥手足がほてる |
| ③しもやけができる（耳・手・足） | ⑦のぼせやすい |
| ④冬は電気毛布，カイロなどが必要である | ⑧急に，暑くなったり寒くなったりする |

この項目では，文字通りおおまかな寒熱の判定が可能。「①寒がりである」「②冷える」の症状があれば寒症であることがわかるし，「③しもやけができる」があれば寒証＋瘀血があることが予想され，とうきしぎやくかごしゆゆしやうきやうとう当帰四逆加呉茱萸生薑湯の適応を考慮できる。「⑤体に熱感がある，よく微熱が出る」からは熱証であることが推定されるし，「⑦のぼせやすい」があれば気の上衝があることが推定され，生薬の桂皮の適応になるかもしれない。「⑧急に，暑くなったり寒くなったりする」という症状は一般には「冷えのぼせ」であり，更年期症状（陰虚証）が推定される。

⑧の項目も本治療法の目安になりやすい。また，風邪に対する方剤選択の目安にもなる。

臨床メモ

- 発熱は原因究明が重要だが，漢方的には，③脈が「浮」か「沈」か，⑥自然発汗があるかないか，⑨食欲など消化器症状があるか，の3つが重要である。
- ④で時間経過をみて，⑥でけいしとう桂枝湯の適否を確認し，⑨で柴胡剤やほちゆうえつきとう補中益気湯の適否を考慮する。

①寒がりである 寒証(☞p257) (瘀血(☞p256) 血虚(☞p260))

②冷える(背すじ・手・足・腰・下半身) 寒証

冷えの原因

- ①気虚(☞p258)による冷え, ②物理的な冷え, ③水毒による冷え,
- ④往来寒熱の冷えの4つ。往来寒熱の冷えは柴胡剤の適応になる。

血虚の臨床サイン

眠りが浅い, 目のかすみ, めまい, 皮膚の色が悪い, 月経不順(補血剤の適応生薬: 当归, 芍薬, 地黄, 酸棗仁など)。

血虚の改善剤

四物湯, 当归飲子, 温清飲, 荊芥連翹湯, 柴胡清肝湯

寒証の臨床サイン

寒がる, 冷える, 下痢, 口渴なし, 舌の湿潤, こむら返り。

寒証の改善剤

乾姜, 附子, 甘草などの温める生薬*を含む方剤を選択する。

※熱薬(温める生薬): 守備範囲があり, 麻黄, 附子, 細辛, 山椒, 乾姜はそれぞれ違う。麻黄は表寒のときに桂皮とともに表面を温める。附子は四肢を, 細辛は氣道を, 山椒は腹部を, 乾姜は体幹を温めると覚えるとよい。

※生姜と乾姜の違い: 生姜は発散作用に優れ, 小半夏加茯苓湯(胃に余った水を発散させる)に使われる。乾姜は温補作用に優れ, 人参湯(感染症で受けたダメージを補う)に使われる。

上焦の寒証: 小青竜湯(麻黄剤なので狭心症, 心筋梗塞の既往の患者には使用しづらい。麻黄を飲むと不眠, 発汗過多, 頻脈, 動悸を訴える人はコーヒーでも同じ症状をきたす。コーヒー嫌いには使用しない)。

中焦の寒証: 人参湯, 真武湯, 補中益氣湯, 六君子湯, 黄耆建中湯, 小建中湯, 桂枝加芍薬湯

下焦の寒証: 苓桂朮甘湯, 温経湯

水毒の臨床サイン

四肢, 軀幹の鈍重感, こわばり, 頭重感, 浮腫, 下痢, 喀痰, 帯下, めまい, 立ちくらみ, 乗り物酔い, 乏尿, 悪心, 歯圧痕など。

水毒改善剤: 利水の4生薬(茯苓, 蒼朮, 沢瀉, 猪苓)を含む方剤。五苓散, 苓桂朮甘湯, 当帰芍薬散, 半夏白朮天麻湯

①感冒初期

[主訴] 頭痛，熱感

患者属性 20歳代，男性

現病歴 今朝から少し頭が重かったが，無理をして大学の講義に出席した。午後3時頃に頭痛が強くなり，熱感も出現。4時に来院した。体温：38.5℃，脈は浮・数・実，舌は所見に著変なし，自然発汗はみられず，後頭部から背筋にかけて強いこりあり，自覚症状として後頭部の緊張感と軽度疼痛あり。

問診票の回答結果

[主訴] ◎頭痛：ズキンズキン，主に後頭部E ◎発熱：38.5℃B ◎おでこが熱いB

◎後頭部・首がこるE

○のぼせやすいB ○肩がこるI

△汗をあまりかかないD △のどが少し痛いH

Q：本症例に合う方剤は何か？

処方選択の方向性

主訴が頭痛，熱感なので，まず「Eあたまについてお聞きます。」(☞p22)の回答に注目する。「ズキンズキン」であるから，水毒による頭痛もありえる。しかし，本例の場合は臨床経過から感冒による頭痛であることが明白である。さらに頭痛の部位が後頭部であること，後頭部，頸部がこるという記載があるので葛根湯を選択できる。葛根湯を処方して，すぐ就寝するように指示した。

経過

翌日，元気に大学に出席，講義にも出られた。布団に入ったあと体が温まり，汗

をたっぷりかいたあと、朝までぐっすり眠れたという。

A: ^{かつこんとう}葛根湯

解説

感冒症状については、風邪の始めは表証であり、^{かつこんとう}葛根湯をはじめとして
^{しょうせいりゅうとう}小青竜湯、^{まおうとう}麻黄湯、^{けいしとう}桂枝湯、^{こうそさん}香蘇散から選択する。比較的体が丈夫で、汗が出づら
い状況では^{まおうとう}麻黄湯がよい。汗かきの虚証には^{けいしとう}桂枝湯、鼻水・くしゃみが多ければ
^{しょうせいりゅうとう}小青竜湯を処方する。亜急性期になれば^{しょうさいごとう}小柴胡湯や^{さいこけいしとう}柴胡桂枝湯などを処方する。
こじれた状態で疲労感・体力低下があれば^{ほちゅうえつきとう}補中益気湯がよい。この症例の場合、感冒
初期で問診票回答でも後頸部のこり、頭痛、汗をあまりかかない、がそろっている
ので表証であり、^{かつこんとう}葛根湯が適合する。

急性期（太陽病期，少陽病期）～亜急性期の感冒の一般的漢方処方

太陽病の感冒は自然発汗がみられず、うなじや背中がこわばる場合や、体力があ
る人には^{かつこんとう}葛根湯を投与する。自然発汗がみられず、筋肉痛や関節痛を伴う場合は
^{まおうとう}麻黄湯を使用する（インフルエンザでも可能）。自然発汗がみられて、^{かつこんとう}葛根湯や
^{まおうとう}麻黄湯でも胃腸障害をきたすような虚弱な人には^{けいしとう}桂枝湯を投与する。さらに^{けいしとう}桂枝湯
でも胃腸障害や、食欲不振、抑うつ症状を伴うものは^{こうそさん}香蘇散が良い適応である。

^{かつこんとう}葛根湯、^{まおうとう}麻黄湯は麻黄剤と呼ばれ、生薬の麻黄が含まれており、高齢者や高血圧
患者では慎重に処方すべきである。少陽病の感冒では普通の体力であれば^{しょうさいごとう}小柴胡湯
を、体力が弱いようであれば^{さいこけいしとう}柴胡桂枝湯を使用する。陰病の感冒では、発熱があり
悪寒が強いものには^{まおうぶしさいしんとう}麻黄附子細辛湯を、下痢を伴いもっと体力が虚弱なものには
^{しんぶとう}真武湯を使用する。